

# ECO'S 通信

2010  
 8月  
 Vol.207

## 社長が薦める今月の一冊

一冊でわかる イラストでわかる  
**図解 日本史**  
 野島博之監修 成美堂出版編集部発行



私は縄文、弥生時代から、飛鳥、奈良時代と続く人々の営みが好きです。弥生時代になり、稲作が始まり、農耕文化の発達とともに、米の貯蔵が始まり、貧富の差が、そして階級社会が生まれる。部族間の戦争が始まり、小さい集落が大きい集落に併合される。紀元前1世紀ごろ全国に100以上のクニが誕生する。

やがて3世紀後半日本は統一され、ヤマト政権の誕生。6世紀中頃仏教の伝来。710年奈良時代が始まる。記載はないが、733年出雲國風土記が編纂された。

出雲國風土記によると、すでに我が愛する郷土には、今の地名はほとんど存在し、人びとの賑わいが本の中から湧き出てきます。特に私の好きなくだりは、今も存在する朝酌の促戸渡(せとのわたり・矢田の渡し)です。ここは交通の要路で、官営の渡しと民営の渡しがあり、人びとの行きかいと魚の飛びはねる景色が、じつに生き生きと描写してあります。歴史のおもしろさです。

(山根)

## ちょっといい話 No.10

7月27日夕方、工場動力源のブレーカーが落ち、設備がストップするという事態が発生しました。今回の防爆仕様の工事を、松江の「今電」(原設備さんの紹介)という工事業者さんに行ってもらいました。

今電さんに急な工事でも快く受けていただき、昨日の夕方から工場入りし夜遅くまで作業をして頂いたおかげで、予定より早く作業が終わり工場を立ち上げることが出来ました。

今回急なお願いに対して何とかしてあげたいという思いが、電話の向こうから伝わり感動を覚えました。少人数で切り盛りしておられますが、今回のように小回りがきくところがお客様に好感をもてると感じました。

今回の件で、我が社もお客様の急な要請に対して、最大何処まで手を尽くすことが出来るか。対応の結果によっては感動を与えることになると思います。

(松下)

## 蔵書新着状況

- ・唐川びとへ 白谷達也・写真 古澤陽子・文 ラトルズ
- ・神々の国の首都 小泉八雲著 平川祐弘編 講談社
- ・化学工学便覧 丸善
- ・なぜ?1万円の羽毛布団は400万円で売れたのか? 佐藤昌弘 アスコム
- ・サマンサ魔女の笑顔が会社を伸ばす 井上邦彦 生産性出版
- ・RAILWAYS 小林弘利 小学館
- ・図解日本史 野島博之 成美堂出版
- ・入団への道 ~夢をつかむまでの軌跡~ Pure-season 松尾様から寄贈

## 編集後記

2ヶ月前は瀕死の状態だった、本社構内のブルーベリー。7月下旬頃には、新芽が出て、生き返ったようだ。伊達山社員が、肥料をしっかり施し、朝夕の水やりをかかさなかったそうだ。彼の愛情に応えてくれたのだ。来年はきっとたくさん結実するにちがいない。ブルーベリーは健康食品などで、「目によい」とうたわれ、人気が高い。完熟した果実は最高に旨い。来年のブルーベリー狩りを楽しみにしておこう。

発行日：毎月10日  
 発行：690-0025 島根県松江市八幡町796-20  
 TEL 0852-37-2470 FAX 0852-37-2472  
 山陰興業(株) ECO'S通信編集部 長野  
 E-mail :h.nagano@e-skk.co.jp  
 印刷：授産センターよつば 印刷係

ホームページ公開中(<http://www.e-skk.co.jp>)

## 今月のクイズ

解答を下記編集部までお寄せ下さい。応募の方法は、ファックス、電子メール、ハガキ、営業マンに渡していただいても結構です。正解者の中から抽選で1名様に賞品を差し上げます。今月の賞品は、二十世紀梨5kgです。締切は8月末です。奮ってご応募ください。

Q: 右の花の写真は、6月下旬に撮ったものです。秋の味覚の一つですが、何でしょうか?



先月号の答えは「ギリシャ」でした。抽選の結果出雲市久谷様が当選です。おめでとうございます。

応募用紙(答)

会社名または住所、氏名

FAX 0852-37-2472 E-mail h.nagano@e-skk.co.jp



## 新しいことに挑戦する

第38期『励みの会』が、開催された。第38期の行動指針は「自分で考え、自分で実行する、そして失敗をおそれるな」である。お客様のために、そして山陰興業の発展のために、自らが考えた新しいアイデアや取り組みを力強く発表した。社長に私たちの日々の活動を理解してもらい、社員同士がお互いに刺激しあい、喜びや問題点を共有して、さらに山陰興業の発展につなげていく試みだ。



A計画を発表した大國リーガ-



22年工場改修計画を発表した木村リーガ-



顧客管理システムを発表した榎並社員



SANシステムを発表した恩村社員



ドリームカー導入を発表した岡田社員



エコス通信の感動宣言を発表した長野課長



117°の外を発表した福岡課長

7件の発表のなかの一つを紹介する。

### 『SANシステム』

経費・売り上げ・入金等の情報を正確に入力することによって、正確な財務体質が把握でき、会社全体の健全な成長・発展のための方策をとることができる。

恩村社員は、SANシステムの本来の目的をよく理解しており、その目的を達成するための具体的な手順を、合理的に一段階ずつ踏んで、ステップアップしている。

さらに、SANシステム情報を他部署(エネルギーサポート事業部KYS部門、工事部)で活用し、営業活動で展開

されている。

例えば、このシステムの活用は福島シニアマネージャーが群を抜いている。お客様へのきめ細かな提案営業は、実績をもとに豊かな経験をふまえた営業で、お客様からも絶大な信頼を頂いている。

このように、若い社員の新しい取り組みで、社内が活性化され、また新しいことに挑戦する風土や勇気も育つ。会社の未来を担う若き社員たちの取り組みに感動を覚える。

日々挑戦である。(長野)

\*SANシステムとは、山陰興業(株)社内総合情報管理システムです。

『感動宣言』  
 お客様や社員、さらには地域社会の感動話を掲載してまいります。  
 弊社とお客様との間に生まれた「ちょっと話」や「伝えるような感動話」をお届けしていきます。よろしくお願いします。

原稿を公募します 本誌の原稿を公募します。800字~1000字程度で、身近な出来事をテーマにしたものを希望します。随時受け付けます。内容により不採用の場合はお許しください。編集部あて、どんどんお寄せ下さい。薄謝を差し上げます。

お客様訪問

## 環境開発工業株式会社 様

〒061-1111

北海道北広島市北の里41番地

TEL 011-373-2728

FAX 011-373-2499

http://www.kklp.co.jp

### NPO法人「L and P」設立

民間企業として初めて、福祉のNPO法人を設立され、企業と福祉が融合できる環境づくりを行い、企業として社会貢献を行っている。

これは、以前より障がい者雇用に積極的であり、行政等の評価がよく、いっそ福祉を取り込んだら・・・ということで2010年7月22日に認可がおりた。それまでの実績が大いに評価されての法人設立なのだ。

「就労継続支援A型（雇用型）」の認可を受けることにより、より多くの障がい者を迎えられることが可能となる。「就労継続支援A型（雇用型）」を取得するため、NPO法人を申請。「L and P」として、認可されたのだ。「環境（リサイクル事業）と福祉（障がい者の自立）の融合」として、新たな取り組みを展開することとなる。これは、企業と福祉の関係が継続しつつ、発展を意味するものだ。環境開発工業(株)は、2006年4月より、知的障がいをもつスタッフを迎え入れており、リサイクル事業の中核となっている。

### OA機器のリサイクル処理

すべて手作業での解体、分別。それには、人材が必要になる。その人材を障がい者に求め、仕事によって障がい者の自立を支援する。利用者は赤いユニフォーム、紺色のユニフォームは福祉施設職員。就労当初は、福祉施設職員が、利用者に仕事を指導する。（下記写真参照）



OA機器のリサイクル現場にて



左より、L and Pの渡井様。環境開発工業(株)山田社長様、長谷川会長様、高田シニアマネージャー様。

### オイルエレメントリサイクル

2年前から、5名の利用者が作業を担当している。そのなかで、Tくんは、社員となり品質管理・機械のメンテナンスまでこなし、みんなのまとめ役をも担っている。さらに、今まで事故を起こしたことは一度もないのである。また皆さん、挨拶がとてもよいのである。



### 廃食油の回収→バイオ再生油へ

社会福祉法人朔風の段ボール、古新聞等の回収ルートと一緒に回収している。社会復帰センター（作業所）に回収された廃食油は、利用者がドラム缶に移すのだ。それを環境開発工業(株)が引き取りに来る流れだ。廃食油が入っていたペットボトル等の容器は、RPFの原料となる。CO2削減という産業界のニーズに応じて、廃食油を加えたバイオ再生重油の開発に成功しているようだ。

このたびの訪問で、環境（リサイクル事業）と福祉（障がい者の自立）についてたくさん学ばせていただいた。このような福祉とのかかわりは、社会貢献のパフォーマンスに終わらせてはならない。環境開発工業(株)は実績を積み上げられ、福祉のNPO法人を設立した。その先進的なものの考え方、前例のないことをやり遂げる勇氣に拍手をおくりたい。（長野）

### 事業内容

- 「埋めない、焼かない」を目標に、リサイクル率向上と環境と福祉の融合を目指して活動しています。
- ・廃油収集運搬及び処分・再生重油販売事業
- ・産業廃棄物収集運搬及び処分業
- ・RPF製造事業
- ・オイルエレメントリサイクル事業
- ・LINK-PRO開発事業
- ・E.D.I事業

\*文中での表記：利用者と障がい者を同等の意味で使っています。利用者とは、福祉施設の利用者をいう。



### 一斉清掃の実施

生垣の剪定が行われた。ヘッジトリマーが重く、すぐに腕が痛くなり、使い続けるには至難の業だ。しかし、大國社員をリーダーに、福岡課長、藤原社員、勝部社員の連携プレーで短時間のうちにきれいに刈り上げられた。ヘッジトリマーで刈る人、刈った枝類を集める人、枝類を軽トラックの荷台に乗せる人、軽トラックを運転する人、その連携はすばらしく、自然とそれぞれが自分の仕事として全うしていた。息の合った動きで、誰一人として無駄な動きが無かったのだ。刈り上げ後は、道路から構内が見渡せるようになった。



いつでもきれいな山陰興業になるようにしていきたい。（長野）



### 巡視船「いわみ」の体験航海

浜田港周辺は、美しい海岸線が広がっており、サーフィンなどのマリンスポーツや釣りが盛んで、地元はもとより山陽方面からもたくさんの観光客が訪れています。

この美しい海を守りながら海難救助、不審船の領海侵犯、密輸、密漁、廃棄物の不法投棄等、私たちの生活にむすびつくような安全をも守ってくれるのが、海上保安庁の仕事です。「海の月間」行事として体験航海に参加させていただきました。

ヘリコプターによる海難救助のデモンストレーションでは、ヘリコプターから救助隊員が船におりてくるのですが、その動作の機敏さ、降下位置の正確さにはびっくりしました。巡視船「やなかぜ」によるカラー放水、水上タクシーなど普段見ることができないデモンストレーションも体験しました。

島根県は美しい日本海に面しています。私たちの努力でこの美しく安全な海を後世に残していかなければならないと感じます。（桑本）



### 『ちっちゃいけど世界一誇りにしたい会社』を読んで



自分が弊社への入社のおきさつは、次のようです。当時、廃油は処理に困り、やっかい物として扱われていたが、それを再生し、地元の企業に安価で使用して頂く。

我が社は、廃油の排出者側と使用者側とのかけ橋の役割をしており、お客様のために尽くす“奉仕の精神”に魅力を感じ入社した。

当時、回収に廻っていた時も、お客様から「本当に助かります。」という声掛けをよく聞いたものです。

三十数年、今日まで継続しているのも社員一人一人が“奉仕の精神”を守り続けているからこそ成り立っていると思います。

今後も、おごることなく、お客様から喜んで頂けるにはどうしたらいいかを、絶えず念頭において行動したいものです。（福島）

### 元気の出る言葉

中村天風師

教わったとおりに、実際に歩き出さないう目的の場所につきっこないよ

（君に成功を贈るより、日本経営合理化協会刊）

何か目標を定めたら、その実現のためにまずやってみることだ。何もしなければ、目標の実現どころか進歩無く、後退するばかりだと思え。まずやってみることで、実現のための方策も見つかるかもしれない。いつも前向きに積極的に行動しよう。（長野）



「ササユリ」独特の香りで、うっむき加減に楚々と咲く姿がステキです。葉がササに似ています。





## 「鳥の目」と「虫の目」の二つの目で仕事をこなす

・周りからお客さまから素晴らしいといわれる社員と会社になる・

社長 山根久志

7月27日19:20、工場トラブルが発生し、操業が中断しました。現場の復旧、安全確認を実行し、29日11:30操業再開しました。

おかげさまでお客さまへの商品の供給は継続でき、ご迷惑をかけることはなかった。ただ一つ、社員が暑い中、お客さま先から収集してくれた原料は、残念ながら自社工場で製品化されるのではなく、緊急に協力業者へ搬入せざるを得なかった。

このような緊急事態が発生した時には、まず直ちに操業を停止し、周囲に対して、自分達に対して安全であるかの確認をする。そして原因の追及をして、操業再開に力を集中させ、安全とお客さまにご迷惑をかけるかを第一に考え、関係者全員で力を合わせ対処してください。

しかし実際には、一度に集中して、思いもかけないようなことが数多く発生します。今自分は何をすべきか。同僚には何をしてもらおうか。誰に連絡したらいいか。次は何をしたらいいのか。混乱して全体が見えな

くなり、結果被害が大きくなることも考えられます。

こんな時こそ、広い視野を持つ「鳥の目」と、近くを正確に見る「虫の目」が必要です。まず「鳥の目」で、仕事の全体像を一段高いところから見渡し、いま自分の作業が全体のどの辺りに位置しているかを確認する。あるいは組織全体の中に占める自分の仕事の意味や役割をはっきりさせる。

そして同時に「虫の目」で目の前の仕事を細かく分類し、毎日の作業や現場で培った現場感覚を大切に、5W1Hで段取りし、一つ一つ優先順位に従ってこなしていく。

このように「虫の目」で、目の前の作業を正確にこなしながら、同時に「鳥の目」で、全体の見取り図を注意深く見ることを忘れない。日常の仕事をしながら、夢中になって全体を見失い、間違った方向へ行くことを経験しませんか？いつも「鳥の目」と「虫の目」の二つの目で仕事をこなして下さい。

## 私はこう考え、こう実行します

### 【安原】

事業発展計画書で全体の達成度を確認し、各プロジェクトに参加して、問題はないか確認する。

### 【松下】

「鳥の目」でみる習慣を身につけるためにも、行動を起こす前に、一旦、状況を整理する気持ちをもつ。

### 【岸本】

「鳥の目」と「虫の目」両方の目で見るとする。

### 【福岡】

特殊作業時には、工程表をもとに工程管理をし、全体の日程を考え、一日一日を安全に工程通り作業を進める。

### 【福島】

目標達成に向け、日々段取りこなしていく。

### 【吾郷】

広い視野を持ち、全体を考えて作業をします。

### 【大國】

お客様の目線で仕事を考え行動する。

### 【榎並】

やるべき仕事が優先順位で行えているか確認をしながら仕事を進めます。

### 【山口】

私はまず「虫の目」を養うために毎日の作業を一つ一つこなします。

### 【岡田】

全体を見る目と細部を見る目を育てます。

### 【高橋】

私はISO14001の規格を山陰興業に合った手順、基準に整えていきます。

### 【木村】

23年3月には改修工場を作る。

### 【松本】

もう一度まわりを見渡せる余裕を持ちます。

### 【長谷川】

初心にかえり、今一度自分の仕事をみつめ返します。

### 【植尾】

ほう・れん・そう の徹底。

### 【伊達山】

自分の仕事を俯瞰で見る。

### 【恩村】

優先順位にそって、正確なデータ管理をします。

### 【藤原】

自分が仕事をしている時、仕事途中になにか問題が起きないように、鳥の目と虫の目を意識しながら仕事をします。

### 【石田】

「虫の目」「鳥の目」を常に意識し、仕事に対し全体を見ながら正確に行動していく。

### 【足立】

社内の予定、動きを把握しながら、自分自身のやるべきことを見つけ、確実にこなす努力をします。

### 【中村】

常に勉強の気持ちを持ち続け改善に努めます。

### 【清水】

何事も冷静に広い視線で対処していきます。

### 【長野】

常に全体を見渡せる心の余裕をもつ。

(一部社員抜粋)



## ISO研修を受講して

ハイレベルで濃厚な五日間でした。初日は、各地から集まってこられた研修生の皆さんのこの研修に参加する動機をお互いに紹介するところから始まりました。

ISO審査員になるため、環境推進事務局から環境管理責任者へ担当が替わって新たに受審するために必要になった、品質と環境を兼務するのに必要になったなど高い目標に向かって臨まれる方々でした。

限られた時間のなかで多くのことを吸収することの大変さを痛感すると共に、高い意識で受講されるグループの中での研修の毎日には私にとって大変貴重な体験でした。

今回の研修で学んだことを、今期の事業発展計画に沿ったISO活動計画を作っていくことに生かしたいと考えます。まずは更新審査に通ることが現在の課題です。

(高橋)



## 今月の工場改善・・・安全操業のために

配管の中身と流れの方向を見える化しました。配管が複数あり、見やすい箇所にシールを貼って表示しました。緊急事態が発生したときは、内容物がわかるので、最適な対処法で即座に対応することができるのです。

(伊達山)



## 全国経営者セミナーに参加して

### 講演を拝聴して

報告者：安原

大手企業が進出しない小さな市場を徹底して狙い、市場占有率を上げて利益を確保することが、中小企業が生き残る唯一の道であることを聞きました。

当社に置き換えれば、山陰という小さな市場の中でダントツのナンバーワンになることであり、ライバルが入ってきて、お客さまから「山陰興業以外には頼まない」と言って頂けるまでに、お客さまが本当に必要とされるサービスを徹底して磨き、環境の変化とお客さまの要望に合った商品、サービスに進化させなければなりません。

今、廃油収集チームで取り組んでいる11プロジェクトが、まさに他社との差別化を徹底して実行し、お客さまから優先的に選んで頂くための仕組みづくりです。

30数年を掛けて築いたお客さまとの信頼関係をより強固なものにするために、チーム一丸となってこのプロジェクトを成功させます。

中央に牟田理事長、安原常務(左側)と松下部長

## 「完成品を売って販路を広げる」

(牟田理事長講演)

報告者：松下

我が社に落としこんでみると、次の2つが考えられる。

1.廃油以外の廃棄物全般を取り扱う。

環境面から考えて破碎、粉碎、圧縮等の中間処理施設を設け、対象となる廃棄物の収集範囲を広げることで事業の収益増に繋がると思う。

2.地域への再生油の販売先を探る。

廃油の発生量は今後減少していくが、地域に特化すれば、十分対応できる収集量は確保できると思う。

